

大塚寛治氏の訃報

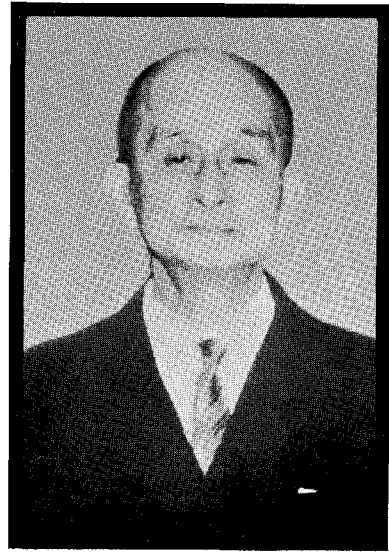
大塚奨学金として永年親しまれてきた大塚寛治氏には、昭和 58 年 1 月 5 日、享年 94 才で逝去された。

本会は、昭和 35 年 10 月、氏より、100 万円の御寄附をいただき、昭和 36 年春の評議員会において、大塚奨学金に関する内規を制定して、会員からの応募を受付けることとした。以来、多数の応募者の中から、19 名（内 4 名は昭和 54 年内地留学奨学金に変更後）の本会会員が、奨学金の支給を受けて、日本国内の研究機関に留学する機会を得ている。ここに、氏の御遺志を念じて、謹んで御冥福を祈りたい。

大塚寛治氏の略歴

明治 21 年	新潟県に生れる
明治 44 年	東京帝国大学星学科卒
大正 3 年	東京帝国大学電気工学科卒
大正 9 年	日本化学工業株式会社取締役
昭和 9 年	同 常務取締役
昭和 15 年	同 専務取締役
昭和 20 年	同 取締役社長
昭和 38 年	同 取締役会長
昭和 44 年	同 相談役

自宅は、東京都江東区亀戸 9-15-1 日本化学工業株式会社内だった。



野辺山宇宙電波波観測所留学的印象

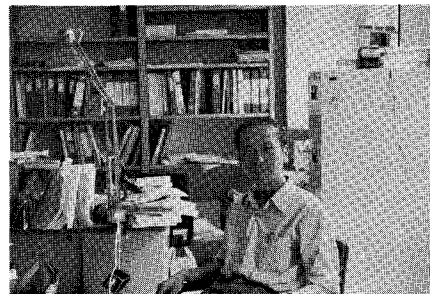
周 震 浦*

私は 1982 年夏、松前国際友好財団基金により東京天文台を訪れ、7 ヶ月にわたって滞在しました。電波天文を専攻していますので大半の時間を野辺山で過ごしました。皆さん御存じのようにここには短センチからミリ波帯で最高のレベルにある 45m 電波望遠鏡と五素子干渉計があります。私が野辺山を去るにあたって平林博士より印象を寄稿するようにすすめられましたので喜んでお引き受けした次第です。

野辺山高原には、至るところ林や牧草地があり、八ヶ岳の嶺々が地上の大アンテナに対して保護スクリーンのように立ちはだかり、絵のような美しさです。そして何よりも印象深いのは日本の友人の親切と友情でした。皆さんは生活面、仕事面でも助けて下さいました。これがなかったら何も進まなかったのではないのでしょうか？とりわけ、赤羽および森本教授、海部および出口博士は

気をつけて下さいました。これらの親切を一生わすれることは無いでしょう。

このようにすごい装置をもっていないながら、あまりにも少ない人数でやっていることは驚ろきでした。もし可能なら、もっとたくさんの人数が欲しい状態です。でもとにかく、あれだけの小人数であのように大きな装置をと



観測所の自室でくつろぐ周氏。（訳者撮影）

* 中国科学院紫金山天文台